

(3) 繊維産業

◆ 概要

京都市の繊維産業（注）は、平成 22 年工業統計調査結果報告（従業者 4 人以上の事業所）によると、事業所数は 693 所で、前年比較では 75 所減少（対前年増加率△9.8%）している。従業者数は 7,061 人で、前年比較では 449 人の減少（同△6.0%）となっており、製造品出荷額等は 720 億 42 百万円（同△5.9%）となっている。

京都市の製造業に占める繊維産業の割合は、事業所数が 25.8%、従業者数は 10.8%、製造品出荷額等は 3.3%となっている〔表Ⅱ-3-3-1、図Ⅱ-3-3-1〕。

平成 19 年商業統計表によると、京都市の繊維・衣服等卸売業の商店数、従業者数、年間商品販売額は、それぞれ 1,491 店（構成比 26.0%）、13,293 人（同 23.1%）、5,611 億 31 百万円（同 15.8%）となり、京都市の卸売業（業種中分類 5 分類）中、商店数は 1 位であり、従業者数で 2 位、年間商品販売額で 4 位となっている。

このように、繊維産業は、本市産業の中で非常に重要な位置にあるものの、その変遷をみれば、工業統計表における繊維工業（衣服・その他繊維製品を含まない）の産業中分類別製造品出荷額等の構成比は、昭和 60 年まで 1 位であったが、その後低下傾向が続き、平成 20 年では繊維工業（衣服・その他繊維製品を含む）は 9 位まで低下している。

注 京都市の繊維産業には、西陣織や京友禅等と和装関連の産業が含まれるが、現在実施されている統計の産業分類ではこれらの分類が明示されていない。そのため、これらの産業をも包含したものとして、工業統計調査における産業中分類の「繊維工業」を京都市の繊維産業とする。

◆ 市内の繊維産業の特色

繊維産業の製造品出荷額等を産業細分類別に見ると、織物手加工染色整理業が 114 億 22 百万（構成

比 15.9%）で最も多く、次いで絹・人絹織物業の 114 億 14 百万円（同 15.8%）、和装製品製造業（足袋を含む）の 78 億 12 百万円（同 10.8%）の順となっており、和装関連分野が大きなシェアを占めている〔表Ⅱ-3-3-2〕。

① 西陣機業

京都は古来より「織」の代表的な産地であり、意匠紋紙（いしょうもんがみ）、撚糸（ねんし）、糸染、整経（せいけい）、綜統（そうこう）等の関連業種を擁し、帯、着尺（きじゃく）、金襴（きんらん）、ネクタイ等の一大生産地である。

第 19 次西陣機業調査（西陣機業調査は、昭和 30 年以降、おおむね 3 年に 1 度実施される西陣機業の全数調査で、第 19 次は平成 20 年 1 月～12 月を対象期間とした調査である。）によると、西陣機業では、生産の基礎となる企業数（調査票回収企業数）、織機台数（出機を含む。）及び従業者数（市内出機従業者を含む。）は、それぞれ 415 社、5,473 台、3,815 人であった。また、1 社あたりの従業者数は減少傾向にある。

昭和 59 年を 100 として比較すると、平成 20 年の数値は、企業数が 48.9 ポイント、織機台数が 21.6 ポイント、従業者数が 27.7 ポイントとなっており、大幅に減少していることが分かる〔表Ⅱ-3-3-3、図Ⅱ-3-3-2〕。

平成 20 年の西陣機業の総出荷金額は約 580 億円、1 企業当たりの平均出荷金額は 1.4 億円であった。また、1 人当たりの出荷額も減少傾向にあり、従業員の減少に拍車をかけていると思われる〔表Ⅱ-3-3-4、図Ⅱ-3-3-3〕。

平成 2 年のピーク以降、バブル経済の崩壊、消費の低迷、生活様式の変化による影響等から、年間総出荷金額及び 1 企業当たりの平均出荷金額は平成 14 年までは大きく減少を続けていたが、平成 14 年以降はほぼ横ばいで推移するなど、減少に歯止めがかかっている。この要因としては、平成 14 年から 19 年ごろの景気拡大にともなう国内消費需要の増加が挙げられる。しかしながら、リーマンショック以降の

世界同時不況の影響による販売不振等により、平成20年には総出荷金額及び1企業当たりの平均出荷金額は再び減少している。

表Ⅱ-3-3-1 繊維産業の事業所数，従業者数，製造品出荷額等の推移

(単位：所，人，百万円)

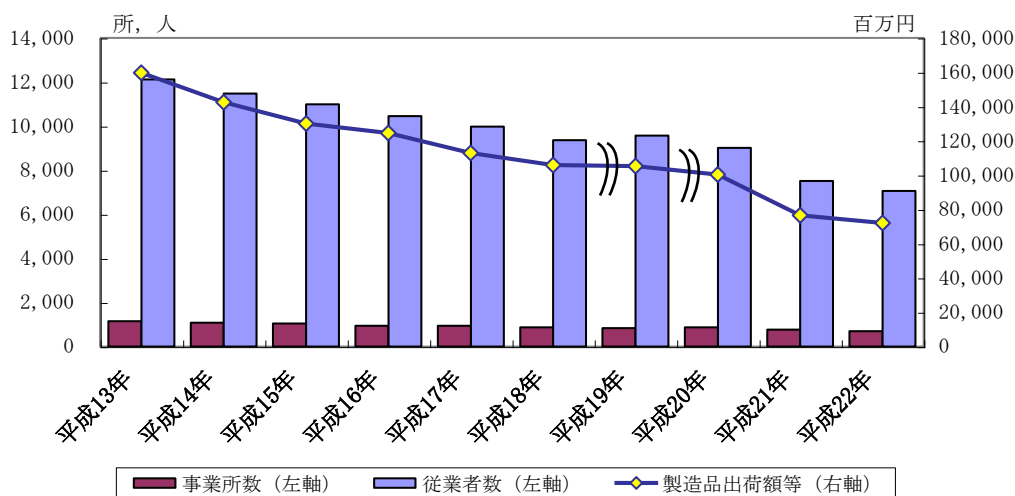
	事業所数	従業者数	製造品出荷額等
平成13年	1,146	12,120	159,715
平成14年	1,086	11,474	142,531
平成15年	1,042	10,992	130,073
平成16年	945	10,450	124,580
平成17年	937	9,971	112,915
平成18年	872	9,360	105,780
平成19年	841	9,565	105,225
平成20年	872	9,016	100,270
平成21年	768	7,510	76,541
平成22年	693	7,061	72,042

資料：京都市総合企画局「平成22年工業統計調査結果報告（従業者4人以上の事業所）」

注：平成19年調査で調査項目を変更したため、製造品出荷額等は前回の数値とは接続しない。

注：平成20年で一部産業分類の改定が行われたため、前年調査の数値とは接続しない。

図Ⅱ-3-3-1 繊維産業の事業所数，従業者数，製造品出荷額等の推移



資料：京都市総合企画局「平成22年工業統計調査結果報告（従業者4人以上の事業所）」

注：平成19年調査で調査項目を変更したため、製造品出荷額等は前回の数値とは接続しない。

注：平成20年で一部産業分類の改定が行われたため、前年調査の数値とは接続しない。

表Ⅱ-3-3-2 繊維産業の主な産業（細分類）別事業所数，従業者数，製造品出荷額等

(単位：所，人，百万円，%)

	事業所数		従業者数		製造品出荷額等	
		構成比		構成比		構成比
繊維工業	693	100.0	7,061	100.0	72,042	100.0
織物手加工染色整理業	171	24.7	1,396	19.8	11,422	15.9
絹・人絹織物業	139	20.1	1,293	18.3	11,414	15.8
和装製品製造業 (足袋を含む)	75	10.8	695	9.8	7,812	10.8
繊維雑品染色整理業	17	2.5	415	5.9	6,834	9.5
他に分類されない 繊維製品製造業	24	3.5	315	4.5	3,678	5.1
絹・人絹織物 機械染色業	32	4.6	343	4.9	3,625	5.0
その他の繊維 粗製品製造業	48	6.9	395	5.6	3,544	4.9
織物整理業	28	4.0	376	5.3	3,404	4.7
上塗りした織物・防水 した織物製造業	3	0.4	223	3.2	2,910	4.0
ニット・レース 染色整理業	16	2.3	209	3.0	2,704	3.8

資料：京都市総合企画局「平成22年工業統計調査結果報告（従業者4人以上の事業所）」

なお、細分類については主なものを取り上げている。

表Ⅱ-3-3-3 企業数・織機台数・従業者数の推移

(単位：社，台，人)

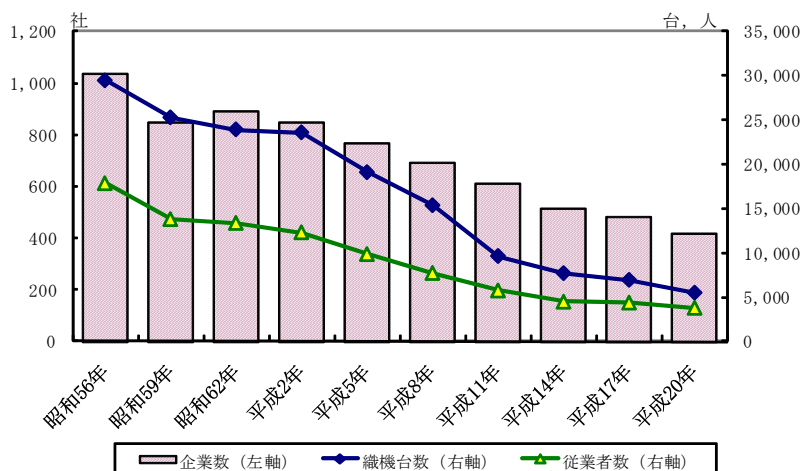
	企業数	織機台数	従業者数	1社あたりの従業者数
昭和56年	1,034 (121.8)	29,462 (116.5)	17,818 (129.2)	17.2 (106.2)
昭和59年	849 (100.0)	25,282 (100.0)	13,787 (100.0)	16.2 (100.0)
昭和62年	891 (104.9)	23,927 (94.6)	13,359 (96.9)	15.0 (92.6)
平成2年	849 (100.0)	23,595 (93.3)	12,307 (89.3)	14.5 (89.5)
平成5年	767 (90.3)	19,086 (75.5)	9,859 (71.5)	12.9 (79.6)
平成8年	690 (81.3)	15,351 (60.7)	7,738 (56.1)	11.2 (69.1)
平成11年	609 (71.7)	9,609 (38.0)	5,764 (41.8)	9.5 (58.6)
平成14年	512 (60.3)	7,676 (30.4)	4,500 (32.6)	8.8 (54.3)
平成17年	479 (56.4)	6,916 (27.4)	4,402 (31.9)	9.2 (56.8)
平成20年	415 (48.9)	5,473 (21.6)	3,815 (27.7)	9.2 (56.8)

資料：第19次西陣機業調査委員会「西陣機業調査の概要」

注1 織機台数は出機を含み，従業者数は市内出機を含む。

2 ()内は昭和59年を100とした指数である。

図Ⅱ-3-3-2 企業数・織機台数・従業者数の推移



資料：第19次西陣機業調査委員会「西陣機業調査の概要」

表Ⅱ-3-3-4 総出荷金額及び1企業あたりの平均出荷金額の推移

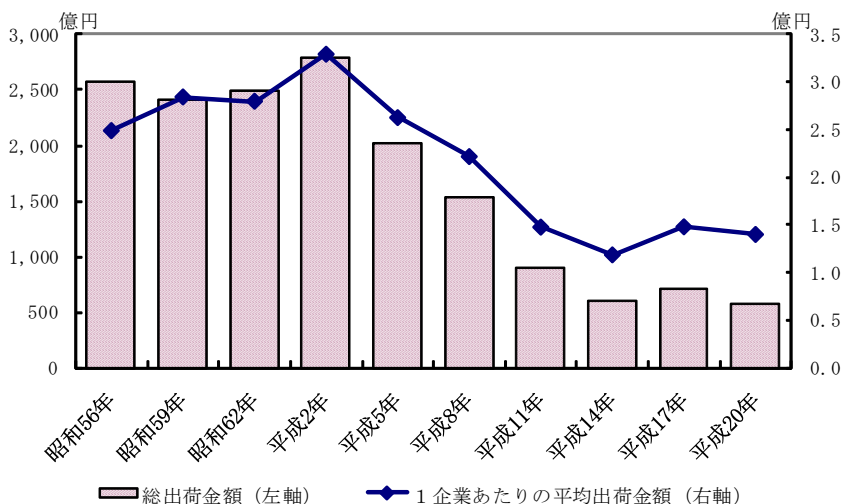
	総出荷金額 (億円)	1企業あたりの平均出荷金額 (億円)	1人あたりの出荷額 (百万円)
昭和56年	2,574 (106.6)	2.5 (87.6)	14 (77.8)
昭和59年	2,414 (100.0)	2.8 (100.0)	18 (100.0)
昭和62年	2,493 (103.3)	2.8 (98.4)	19 (105.6)
平成2年	2,795 (115.8)	3.3 (115.8)	23 (127.8)
平成5年	2,014 (83.4)	2.6 (92.3)	20 (111.1)
平成8年	1,529 (63.3)	2.2 (77.9)	20 (111.1)
平成11年	898 (37.2)	1.5 (51.9)	16 (88.9)
平成14年	606 (25.1)	1.2 (41.6)	13 (72.2)
平成17年	708 (29.3)	1.5 (52.0)	16 (88.9)
平成20年	580 (24.0)	1.4 (49.2)	15 (83.3)

資料：第19次西陣機業調査委員会「西陣機業調査の概要」

注1 1企業あたりの平均出荷金額＝(総出荷金額÷企業数)

2 ()内は昭和59年を100とした指数である。

図Ⅱ-3-3-3 総出荷金額及び1企業あたりの平均出荷金額の推移



資料：第19次西陣機業調査委員会「西陣機業調査の概要」

ア 西陣機業の業種別企業数

平成 20 年の各企業の生産品種（最も出荷金額が多い品種で分類）を基準にその構成を見ると、帯地を生産する企業が 273 社（構成比 65.8%）で最も多く、次いで金襴*の 64 社（同 15.4%）、きものの 38 社（同 9.2%）となっており、これら伝統部門（帯地、金襴、きもの）の企業がおよそ 9 割を占めている。これに対して、ネクタイ等の明治以降に生産の始まった新興部門（ネクタイ、肩傘、広巾服地、室内装飾織物）に属する企業は少なく、その他を含めても 1 割程度を占めるに過ぎない。特に、クールビズの浸透等もありネクタイの企業数が半減している〔表Ⅱ-3-3-5〕。

*金襴とは、金糸等を織り込んだ織物の総称。

イ 西陣機業の織機台数の推移

西陣機業では、高度経済成長の終わる昭和 40 年代後半以降、織機台数は内機*、出機*ともに減少を続けながら、出機は特に丹後への依存を強めてきた。第 19 次西陣機業調査によると、平成 20 年末時点の総織機台数は 5,473 台であり、平成 17 年比で 20.9% の減少となっている。また、総台数に占める京都市内の織機台数の割合は、平成 20 年で 37.5% となっており、平成 17 年と比べて 0.3 ポイント減少している〔表Ⅱ-3-3-6、図Ⅱ-3-3-4〕。

*内機（うちばた）とは、織物製造業者が自家工場
で製織する生産形態であり、出機（でばた）とは、
内機に対する用語として、織物製造業者が他の機
屋へ原料等を支給し、工賃を支払って製織依頼す
る生産形態である。

ウ 西陣機業の職種別従業者数

平成 20 年の従業者（企業主とパートタイマーを除く。）を職種別に見ると、内機従業者数は 3,086 人であり、平成 17 年比で 356 人の減少（増加率△10.3%）となった〔表Ⅱ-3-3-7〕。

内機従業者の内訳を見ると、事務・営業は 1,731 人となり平成 17 年比で 203 人の減少（増加率△10.5%）、間接工は 661 人と同 64 人の減少（同△8.8%）、ウィーパー（織手）は 694 人と同 89 人の減少（同△11.4%）となっている〔表Ⅱ-3-3-7、図Ⅱ-3-3-5〕。

一方、市内の出機従業者数は 729 人で、平成 17 年比で 231 人の減少（同△24.1%）となっており、内機従業者数と比較して、その減少率は高くなっている。

エ 西陣機業の品種別出荷金額

平成 20 年の品種別出荷金額を見ると、室内装飾織物が 269 億 75 百万円（対平成 17 年増加率 5.2%）で最も多く、次いで、帯地の 221 億 65 百万円（同△34.9%）、金襴の 49 億 24 百万円（同 2.1%）、きものの 19 億 96 百万円（同△31.0%）、ネクタイの 9 億 17 百万円（同△61.5%）と続いており、室内装飾織物、金襴以外は大きく減少している。広巾裂地は、平成 17 年に出荷金額がゼロとなり、平成 20 年においても出荷金額はゼロであった〔表Ⅱ-3-3-8〕。

表Ⅱ-3-3-5 業種別企業数

(単位：社，%)

品 種 (業 種)	平成 1 7 年		平成 2 0 年		増 減 率
	企 業 数	構 成 比	企 業 数	構 成 比	
帯 地	313	65.3	273	65.8	-12.8
き も の	40	8.4	38	9.2	-5.0
金 襦	71	14.8	64	15.4	-9.9
ネ ク タ イ	29	6.1	15	3.6	-48.3
肩 傘	3	0.6	4	1.0	33.3
広 巾 裂 地	0	0.0	0	0.0	0.0
広 巾 服 地	0	0.0	0	0.0	0.0
室 内 装 飾 織 物	3	0.6	3	0.7	0.0
そ の 他	20	4.2	18	4.3	-10.0
合 計	479	100.0	415	100.0	-13.4

資料：第19次西陣機業調査委員会「西陣機業調査の概要」

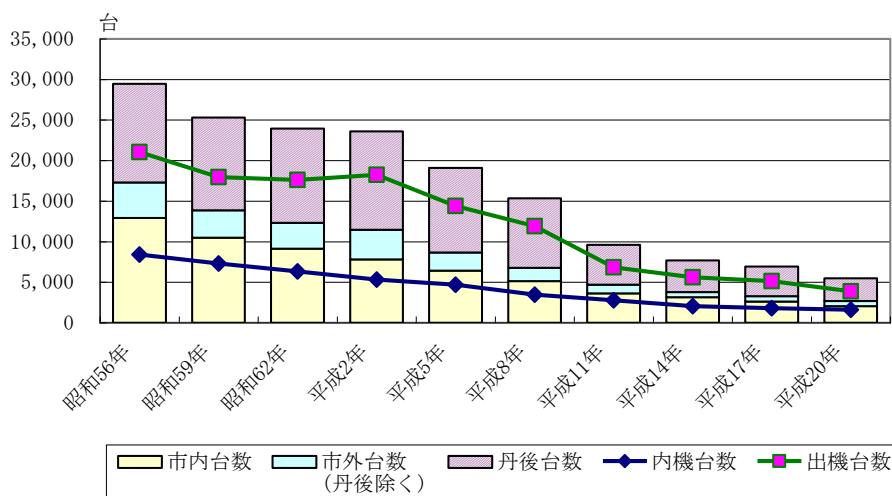
表Ⅱ-3-3-6 総織機台数・主要形態別台数の推移

(単位：台)

	総 台 数	内 機 台 数	出 機 台 数	市 内 台 数	市 外 台 数 (丹後除く)	丹 後 台 数
昭 和 56 年	29,462	8,409	21,053	12,908	4,396	12,158
昭 和 59 年	25,282	7,313	17,969	10,495	3,374	11,413
昭 和 62 年	23,927	6,320	17,607	9,124	3,201	11,602
平 成 2 年	23,595	5,339	18,256	7,823	3,651	12,121
平 成 5 年	19,086	4,691	14,395	6,436	2,225	10,425
平 成 8 年	15,351	3,457	11,894	5,130	1,632	8,589
平 成 11 年	9,609	2,788	6,821	3,635	1,067	4,907
平 成 14 年	7,676	2,061	5,615	3,164	620	3,892
平 成 17 年	6,916	1,795	5,121	2,616	665	3,635
平 成 20 年	5,473	1,608	3,865	2,055	620	2,798

資料：第18，19次西陣機業調査委員会「西陣機業調査の概要」

図Ⅱ-3-3-4 総織機台数・主要形態別台数の推移



資料：第19次西陣機業調査委員会「西陣機業調査の概要」

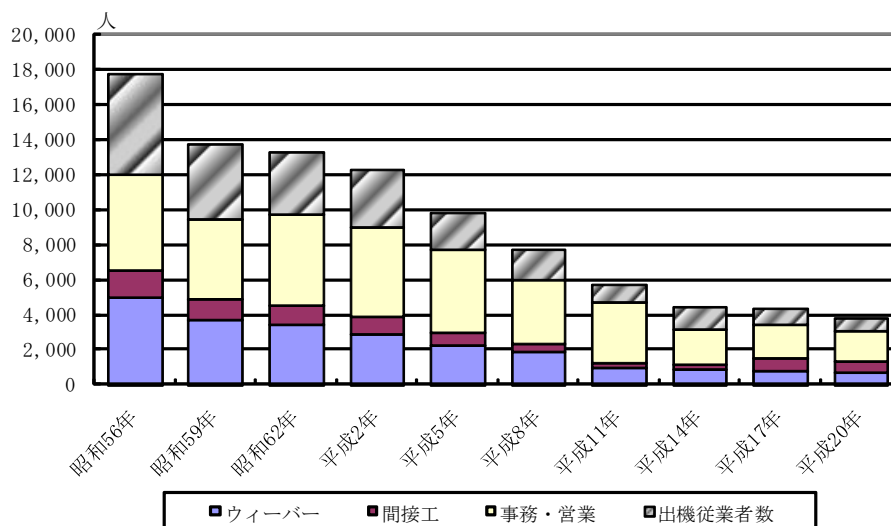
表Ⅱ-3-3-7 従業者の職種別従業者数の推移

(単位：人)

	ウィーパー	間 接 工	事務・営業	内 機 従業者数計	出 機 従業者数	総計
昭 和 56 年	5,056	1,551	5,403	12,010	5,808	17,818
昭 和 59 年	3,753	1,190	4,562	9,505	4,282	13,787
昭 和 62 年	3,481	1,057	5,196	9,734	3,625	13,359
平 成 2 年	2,900	972	5,118	8,990	3,317	12,307
平 成 5 年	2,279	705	4,790	7,774	2,085	9,859
平 成 8 年	1,874	450	3,659	5,983	1,755	7,738
平 成 11 年	1,008	272	3,452	4,732	1,032	5,764
平 成 14 年	934	214	2,068	3,216	1,284	4,500
平 成 17 年	783	725	1,934	3,442	960	4,402
平 成 20 年	694	661	1,731	3,086	729	3,815

資料：第19次西陣機業調査委員会「西陣機業調査の概要」

図Ⅱ-3-3-5 従業者の職種別従業者数の推移



資料：第19次西陣機業調査委員会「西陣機業調査の概要」

表Ⅱ-3-3-8 平成20年品種別出荷金額

(単位：千円，%)

品 種 (業 種)	出 荷 金 額	平成17年対比増加率	構 成 比
帯 地	22,164,817	△ 34.9	38.2
き も の	1,996,073	△ 31.0	3.4
金 襦	4,923,768	2.1	8.5
ネ ク タ イ	917,466	△ 61.5	1.6
肩 傘	39,350	△ 3.8	0.1
広 巾 裂 地	—	—	—
広 巾 服 地	10,000	△ 40.8	0.0
室 内 装 飾 織 物	26,974,841	5.2	46.5
そ の 他	978,560	0.4	1.7
合 計	58,004,875	△ 18.1	100.0

資料：第19次西陣機業調査委員会「西陣機業調査の概要」

② 京友禪業

平成23年度分（平成22年12月1日～平成23年11月30日）の京友禪京小紋生産量調査報告書によると、京友禪（京小紋を含む、以下同じ）の総生産量は477,832反で、前年比6.7%減となっている。京友禪の総生産量は、昭和46年の16,524,684反をピークに、その後は減少を続け、昭和43年を100とした場合の平成23年度の実生産量は、4.1%にまで落ち込んでいる〔表Ⅱ-3-3-9、図Ⅱ-3-3-6〕。

染色加工技術別に見ると、機械捺染が251,824反（構成比52.7%）（インクジェット41,252反を含む）、型染が163,553反（同34.2%）、手描染（ろうけつ染を含む）が62,455反（同13.1%）となっている。前年と比較して、型染は17.5%減、手描染（ろうけつ染を含む）は21.0%減となったが、機械捺染は7.3%増となり、インクジェットのみに限れば35.3%増と大幅に増加している。

流通形態別に見ると、仕入染が471,600反で前年比6.0%減、誂染（あつらえぞめ）が6,232反で前年比39.0%減となっている。

品目別では、着尺が222,123反（構成比46.5%）で最も多く、次いで振袖の90,499反（同18.9%）、長襦袢の67,337反（同14.1%）、訪問着の27,641反（同5.8%）、肩裏の14,550反（同3.0%）と続いている〔表Ⅱ-3-3-10、図Ⅱ-3-3-7〕。

③ 室町卸売業

京都は繊維製品の一大集散地であるばかりではなく、京友禪業者に染加工を発注する染加工元卸、白生地卸等の集積も見られる。

和装染織製品の主たる集積地としては、京都、東京、名古屋、大阪の4都市が著名である。他の3都市が製品の収集と取り揃えを主たる機能とする前売問屋の集積地であるのに対して、京都市の室町卸売業には、前売問屋、染加工問屋、白生地問屋という機能を異にする3種の問屋が集積し、それぞれが一連の流通システムの中核をなしている。

また、京都産以外にも、全国の和装染織製品の集散地ともなっており、京都市は、今なお我が国屈指

の総合和装供給基地である。

平成23年「組合員の業態」（京都織物卸商業組合）によると、業種・業態別に見る商社数は、和装関係が125社（構成比74.4%）で最も多く、次いで洋装関係の24社（同14.3%）、ホームファッション卸の14社（同8.3%）と続いている〔表Ⅱ-3-3-11〕。

また、平成19年商業統計表によると、繊維・衣服等卸売業の事業所数、従業者数、年間販売額は平成14年比で、それぞれ14.9%、15.0%、12.8%の減少率となっており、繊維工業を上回る水準で縮小している。

特に近年は、社歴を誇る老舗企業、売上規模上位の有力企業などの別を問わず、企業淘汰の波が激しく室町業界に押し寄せている。

④ テキスタイル産業

京都のテキスタイル産業は、市内染色業が培った技術を基に、プリント服地の生産に特化し、「京プリント」の名声を博している。

京染・京友禪業の染色、加工技法の流れを汲むテキスタイル産業は、やがてプリント服地の生産に重点を移し、現在に至っている。

京プリントの販売先別数量を見ると、昭和40年代前半までは、「切り売り」、「百貨店」、「地方卸」といった伝統的な流通チャンネルが主流であったが、現在では、第47回京プリント服地年間取扱調査資料集計表（平成22年8月1日～平成23年7月31日）によると、アパレルメーカーに65.1%を依存し、以下仲間筋に24.0%、地方卸に9.3%、切り売り・オーダー店に1.8%、百貨店はゼロとなっており、ファッション業界への素材提供産業としての性格が強まっている〔表Ⅱ-3-3-12、図Ⅱ-3-3-8〕。

また、加工別数量を見ると、労働集約的な手捺染から大量生産に適した自動スクリーンへと重点を移してきており、自動スクリーン76.5%、手捺染14.3%、機械捺染6.7%、その他2.5%となっている〔表Ⅱ-3-3-12、図Ⅱ-3-3-9〕。

表Ⅱ-3-3-9 加工技術別生産数量の推移

(単位：反)

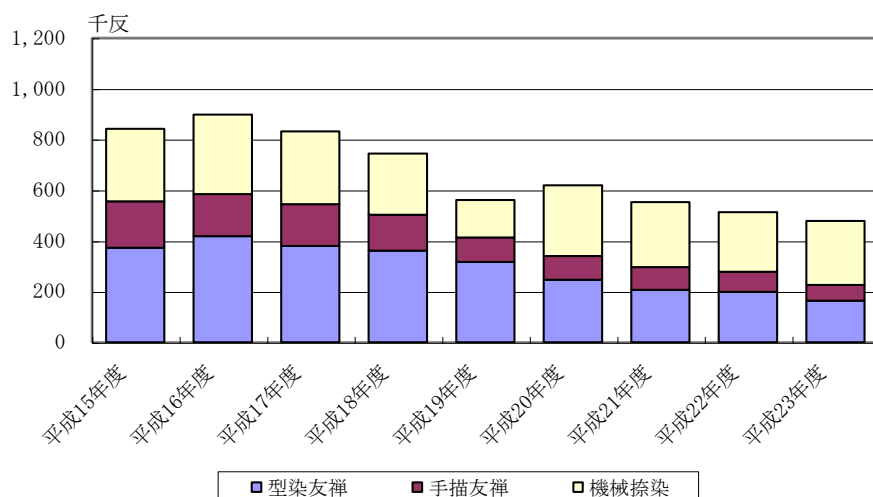
	型染友禪	手描友禪	機械捺染	合計
平成15年度	372,549 (3.9)	183,062 (10.3)	285,148 (86.4)	840,759 (7.2)
平成16年度	417,565 (4.3)	166,530 (9.4)	312,571 (94.8)	896,666 (7.7)
平成17年度	378,860 (3.9)	165,604 (9.3)	285,895 (86.7)	830,359 (7.1)
平成18年度	361,447 (3.8)	140,942 (7.9)	240,880 (73.0)	743,269 (6.3)
平成19年度	316,034 (3.3)	97,092 (5.5)	146,781 (44.5)	559,907 (4.8)
平成20年度	245,848 (2.6)	93,649 (5.3)	279,076 (84.6)	618,573 (5.3)
平成21年度	206,912 (2.2)	89,077 (5.0)	256,652 (77.8)	552,641 (4.7)
平成22年度	198,351 (2.1)	79,089 (4.5)	234,671 (71.1)	512,111 (4.4)
平成23年度	163,553 (1.7)	62,455 (3.5)	251,824 (76.3)	477,832 (4.1)

資料：京友禪協同組合連合会「京友禪京小紋生産量調査報告書」

注1 () 内は昭和43年を100とした数値である。

- 2 「手描友禪」にはろうけつ染めを含む。
- 3 平成19年度から「機械捺染」にはインクジェットを含む。

図Ⅱ-3-3-6 加工技術別生産数量の推移



資料：京友禪協同組合連合会「京友禪京小紋生産量調査報告書」

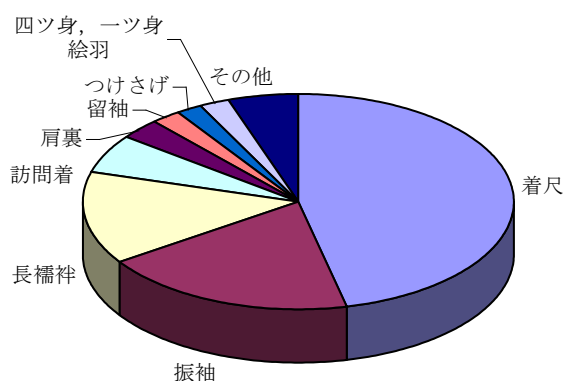
表Ⅱ-3-3-10 品目別生産数量（平成23年度）

（単位：反）

	反 数	構 成 比
着 尺	222,123	46.5
振 袖	90,499	18.9
長 襦 袢	67,337	14.1
訪 問 着	27,641	5.8
肩 裏	14,550	3.0
四ツ身，一ツ身 絵羽	11,074	2.3
留 袖	10,231	2.1
つ け さ げ	8,972	1.9
そ の 他	25,405	5.3
合 計	477,832	100.0

資料：京友禅協同組合連合会「京友禅京小紋生産量調査報告書」再編加工

図Ⅱ-3-3-7 品目別生産数量（平成23年度）



資料：京友禅協同組合連合会「京友禅京小紋生産量調査報告書」

表Ⅱ-3-3-11 業種・業態別に見る商社数と構成比

（単位：社，%）

業 態 別		業 種 別	商 社 数	構 成 比
和 装 125社, 74.4%	前 売 64社, 38.1%	呉服前売卸	55	32.7
		和装製品前売卸	9	5.4
	仲 間 61社, 36.3%	染呉服製造卸	43	25.6
		和装製品元卸	18	10.7
洋 装 24社, 14.3%		テキスタイル卸	10	6.0
		アパレル卸	14	8.3
		ホームファッション卸	14	8.3
		そ の 他 卸	5	3.0
合 計			168	100.0

資料：京都織物卸商業組合「平成23年組合員の業態」

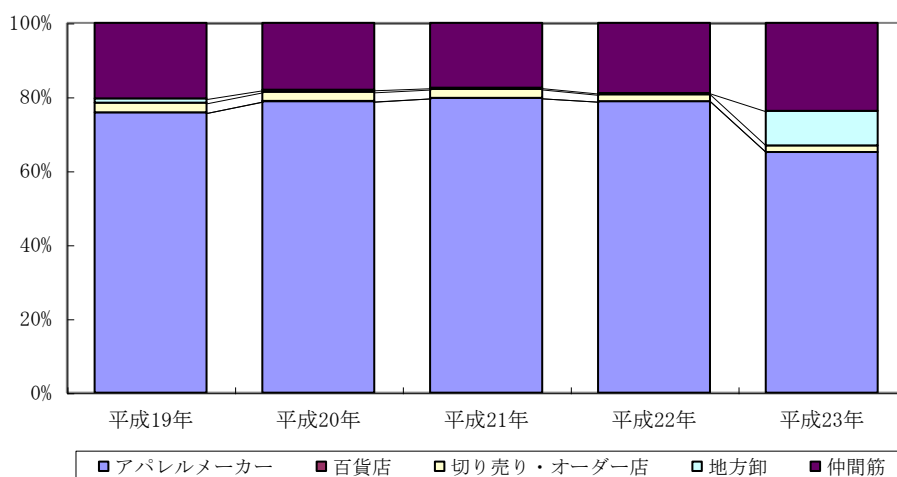
表Ⅱ-3-3-1 2 プリント服地の販路と加工法の構成比の推移

(単位：%)

		平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
販売先別	アパレルメーカー	75.8	78.8	79.7	78.8	65.1
	百貨店	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
	切り売り・オーダー店	2.6	2.5	2.4	1.9	1.8
	地方卸	1.2	0.5	0.4	0.3	9.3
	仲間筋	20.4	18.1	17.5	19.0	24.0
加工別	手捺染	13.1	15.3	17.0	13.6	14.3
	自動スクリーン	74.5	71.2	73.2	75.7	76.5
	機械捺染	8.0	8.9	6.3	7.0	6.7
	その他	4.5	4.6	3.5	3.8	2.5

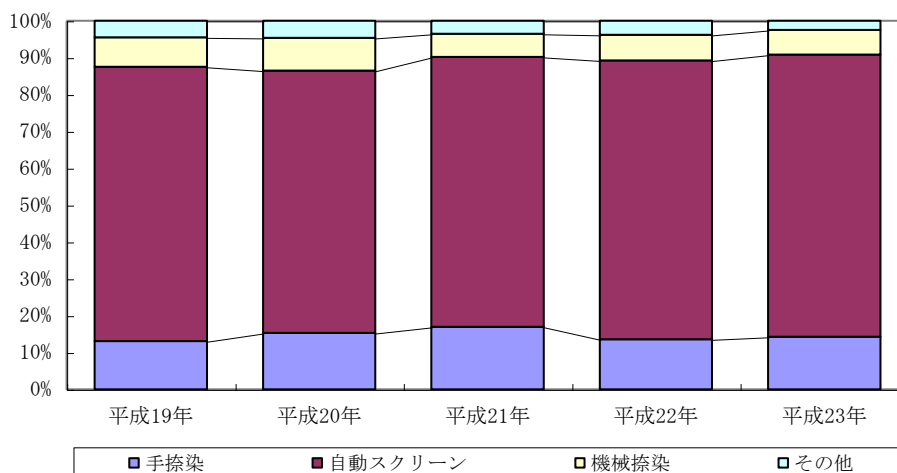
資料：京都織商京プリント振興協会「京プリント服地年間取扱数量調査」

図Ⅱ-3-3-8 プリント服地の販路の推移



資料：京都織商京プリント振興協会「京プリント服地年間取扱数量調査」

図Ⅱ-3-3-9 京プリントの加工別数量構成比の推移



資料：京都織商京プリント振興協会「京プリント服地年間取扱数量調査」